

## (6) 麦類・豆類・雑穀便覧 －面積、収量、流通など早わかり－

北海道農政部農産園芸課では、毎年、「麦類・豆類・雑穀便覧」を作成しています。

「便覧」は、麦類、豆類、雑穀の生産や消費、価格などについての統計や制度・流通の仕組みのほか、種子生産の状況や品種の特性などを掲載しております。

麦類については、Ⅰ 生産状況、Ⅱ 需給状況、Ⅲ 価格等の3項目に分けて記載されていますが、どのようなことがわかるのかを簡単に述べることにします。

### Ⅰ 生産状況は、

- 全国と北海道の小麦、二条大麦の作付面積、単収、平年単収、作況指数、生産量を昭和30年から記載しており、作付の推移や災害年、北海道の全国シェアを知ることができます。
- 道内14支庁別に作付面積、単収、生産量が記載されており、道内の主産地を知ることができます。
- 小麦、二条大麦の品種別作付面積が、昭和50年から記載されており、品種の移り変わりを知ることができます。
- 支庁別に、麦作農家数と平均作付規模の動向を、年次別に知ることができます。
- 麦は、食糧事務所で農産物検査を受けた後に流通することとなりますが、外観品質がどうであったかを、等級別に昭和50年から知ることができます。

### Ⅱ 需給状況は、

- 国内の麦の需給表から、国内生産された麦のシェアの推移や、食糧用と飼料用の比率を知ることができます。
- 外国から輸入される麦の国別、種類別の年次推移を知ることができます。

す。

- 北海道で生産された小麦が、全国のどこのブロックに、どの程度の量が運び込まれているかを、年次別に知ることができます。
- 麦は大口需要者が多く、なるべく大きな単位で流通することが、コストの低減となることから、ばら流通が望まれています、その比率の年次推移を知ることができます。
- 小麦は主に製粉加工されますが、国内における小麦粉の用途別生産状況や、輸入小麦を含め小麦の種類ごと、小麦粉の種類ごとに、どのような用途に使われているかを知ることができます。
- 小麦だけではなく、小麦粉調整品として一次加工品や製品が輸入されていますが、これらの輸入数量の年次推移を知ることができます。
- 国内産麦、輸入麦を合わせた国内の麦流通の仕組みを、フローチャートで知ることができます。

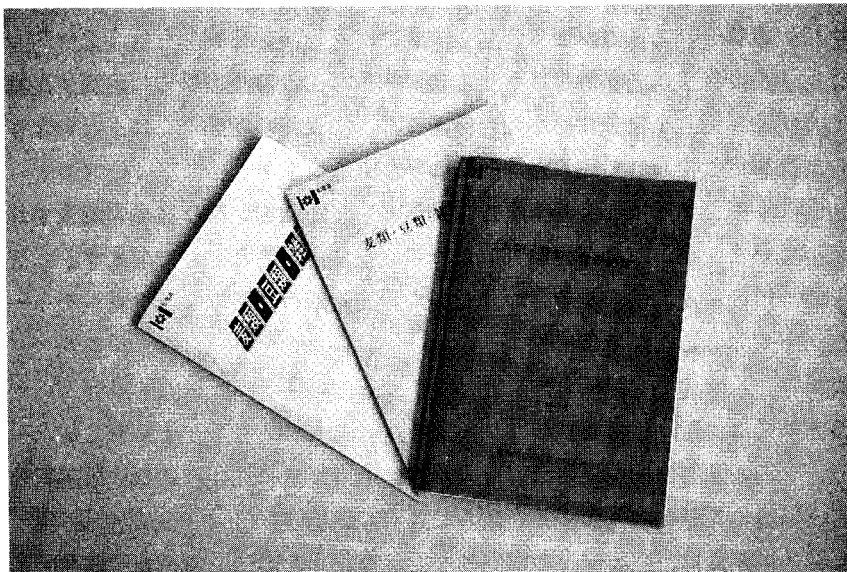
### Ⅲ 価格は、

- 国産麦と外国産麦の政府買入価格と売渡価格の推移により、国産麦の価格の推移や内外価格差を知ることができます。
- 国産麦は、実需者との安定的な受渡を行うために、生産者団体と実需者団体との間で流通契約を結んでいます、契約数量の推移や契約を結んだものに支払われる、奨励金額の年次推移を知ることができます。
- 麦は、収穫期（7～8月）に雨と低温に当たると、著しく品質が低下し規格外麦が発生することがありますが、これによる農家所得の急減の緩和と、飼料用への転用を円滑に進めるために、交付金が交付されていますが、これら交付金制度の仕組み、単価、交付実績を知ることができます。

これらを内容とする「便覧」ですが、平成12年産麦からは、これまでの政府買入から、売り手と買い手が、直接契約を結ぶ制度に移行するために、Ⅱ 需給状況の麦流通フローチャートや、Ⅲ 価格については、大きく書き換えられることとなります。

「便覧」には大豆や特産の小豆、いんげん類など豆類についても、麦同様の項目が記載されています。また、品種特性や作物ごとの生産費も記載されていますので、是非一度手にされてはいかがでしょうか。

<田村 聡>



麦類・豆類・雑穀便覧